

協進レター65号

平成23年5月25日

3.11の未曾有の災害から早2ヶ月が過ぎ、復旧・復興へ向けての色々な情報が聞かれるようになってきました。でも、未だに余震はありますし、福島原発は終息の目処が立っていません。夏に向かってだんだん暑くなりますが、この夏の私達の日常生活はどうなるのか、少し心配です。

日々のお仕事、お客様の安心・安全・快適なサービス提供ありがとうございます。

少し古いのですが、2007年3月島田紳助さんが若手芸人に対して講演したDVDを観る機会があり、感じたことがあったので紹介させていただきます。

人には才能の5段階と努力の5段階がある。5つの才能がある人が5つの努力をすると、掛け算となり最大の25となる。

よく自分は努力していると言われるが、努力をしているとは思わない。それは「意識」の違いだけ。

プロ野球の世界では、打者は毎日500回素振りをする。一流選手は、1球1球投手が誰で、カウントはいくつで次は何を投げてくるのか想定して素振りをする。そして500回素振りをして撃てた良いイメージを描く。一方、

普通の選手はただ一生懸命に500回振っているだけ。腕っ節が強くなる筋トレにしかない。

芸人として売れる為には、教科書が必要だと思っていた。そのため「笑いの教科書」を自分で作ってみた。参考にしたのはB&Bの島田洋七だ。ネタをパクったのではなく、笑いのシステムをパクった。それを相方の竜介に徹底的に叩き込んだ。

従来の漫才は広く老若男女にウケなければならぬとされていた。自分は20歳~35歳の男性に絞った。同期に阪神巨人の巨人がいた。正統派の漫才では彼に勝てない。さんまもいた。彼には花があり、自分はヒーローにはなれない。ヒーロー（悪役）でいくしか勝ち目がない。漫才はスーツとネクタイに決まっていた。自分達は、つなぎとリーゼントでいくことに決めた。

XとYの理論。Xは自分のできること、強み。Yは世の中の流れ、時流。自分もさんまも常に時流に合わせている。多くの芸人は、XもYもわからずに悩んでいる。過去の30年の笑いを調べれば、今後の笑いも見えてくる。

ざっとこのような話の内容です。これを聴いてこんな教訓を得ることができました。

- ① 才能と努力の掛け算をする。
- ② ただ一生懸命素振りしているだけではだめ。
- ③ 客層を絞り込む。
- ④ 違いを明確化にする。差別化する。
- ⑤ 勝てない分野で勝てない相手と

勝負しない。勝てる所でしか勝負しない仕組みを作る。

そこでこんなふうに解釈してみました。

- ① 才能と努力の掛け算をする。「人生は掛け算だ。チャンスがあっても君が0なら意味がない」。自分の部屋の額に飾ってある格言です。自分の才能、自分にできることは何なのか。掛け算しているのか。
- ② ただ一生懸命になるのと、その都度、その先、将来を考えて一生懸命になるのでは、結果が違います。
よく自分なりの努力しているつもりになっています。でも、基が0ならいくら掛けても意味がないし、1なら腕っ節が強くなる話と同じです。
- ③ 私達のお客様は、地域の方たちです。それも高齢の方、障害をお持ちの方、妊婦さん、子供さん等交通弱者と言われる方々です。例えると、普段はタクシーをご利用にならない方も、急な雨の時等は交通弱者になってしまいます。だから、交通弱者が私達のお客様なのです。
- ④ 同じ距離と時間を移動すると、同じ運賃です。お客様が選択する基準は、安心・安全・快適といった付加価値です。違いを徹底的に明確に感じていただくことです。
- ⑤ 不特定多数の利用者が一時的に発生する場所で、迅速な対応ができる体制は、多くの車両数を保有している会社にかないません。ここでの

勝負はしないことです。

時流は、日本社会が成熟期に入っていて、成長期でないこと。大震災に被災して大きな被害が発生し、復興には10年以上かかりそうなこと。人口構成が超高齢化を迎えていること。でも、日本の歴史を視ると、様々な困難な時期を必ず乗り越えて発展してきました。

私達は、今まで成長社会で生きてきましたが、今は困難な時期をしのいで発展に向けての準備期間と捉えたらいいでしょう。

そういうつもりで社業に励んでいきます。皆さんとこういう意識を共有できて、協調協力共働ができれば幸いです。よろしくお願いします。

5月の強化目標に、排出二酸化炭素削減、事故防止、燃費向上を目的に「徹底したアイドリングストップ」「多段階発進加速及び早めの減速停止」を掲げましたが、現在までのところ燃費目標6.4km/lを達成できそうです。今後も有効な「アイドリングストップ」と、「多段階発進加速及び早めの減速停止」の習慣を継続しましょう。

6月1日より9月30日まで、クールビズを推奨します。ネクタイを外してもお客様を接客、おもてなしする仕事であることを忘れずに、協進交通社員としてふさわしい身なりでお客様に接していただくようお願いいたします。